

平成25年10月19日

佐賀新聞掲載～ひびの子育て～

園長子育てコラムVOL.4「『あこがれ』によって人は育つ」

ひびの子育て

「あこがれ」によって人は育つ

「『あこがれ』によって人は育つ」
—私の周りにも多くの憧れる大人がいました。黙々と家族のために働く母親や人のため世のために尽力する恩師…。その人に憧れ早く世の中のお役にたちたいと思ったものです。

逆だったらどうでしょう。仕事から家に帰り「あ～疲れた、仕事なんてうんざりだ」と聞かされている子どもは、「仕事は楽しくないもの」と認識してしまうかもしれません。

「夢」がない若者が多いとも聞きますが、それは恐らく「夢」を楽しく語る大人が周りにいないからですね。子どもをどう育てるかではなく、子どもに接する大人がどうあるかが、子どもたちを育てていくには極めて重要なことだと思っています。

子どもは驚くほど、私たちの表情や言葉を感じとり、忠実にマネをしようとします。「こいはマネせんでよかぞ～」というものを一番マネしだすのが子どもですね（笑）。子どもは、一番信頼した大人が「してもよいとすること」を「善」、「して

はいけないとすること」は「悪」と捉え、これを道徳的実念論といいます。つまり、一番近くにいる大人の行動が、そのまま子どもの「善悪の判断基準」となります。それだけ子どもは大人の行動に憧れ、周りの大人に強い影響を受けるのです。

憧れる大人が周りに存在することで、子どもは行動、生き方をマネするようになり、いずれはその人を越えたいと思うものです。私たちがマネしてもらえる大人となり、子どもをより善い方向に導いてあげなければいけない。

また、私たち大人でも心を開いていない人、信頼・尊敬をしていない人からの助言には、耳を傾けづらいものです。子どもはそれ以上にその場しのぎの対応となり、心に響くことはありません。それは、職場や部活などの指導

でも同じ。信頼もなく、尊敬もされず、憧れられずして、口先だけの注意や指摘は、むしろマイナスの要素しか相手には残りません。

「子どもをどう育てるか」ではなく、「子どもに接する大人がどうあるか」ということを大切に、「夢」を語れる、「あこがれられる大人」でいられるよう共に頑張りましょう！（パパ記者・吉村直記＝おへそ保育園園長）

※過去記事は佐賀のブログウェブサイト「saganPOST（サガンポスト、URL post.saga-s.co.jp）」に掲載。



家族の肖像＝ばぶばぶフェスタ2012会場から